

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 9月 15日
事業所名	グループホーム 扶桑苑
ユニット名	
事業所番号	2 3 7 5 3 0 0 2 1 3
記入者名	職名 施設長 氏名 上田 貴博
連絡先電話番号	0 5 8 7 - 9 2 - 1 6 0 0

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人理念以外に 楽しく共に助け合いましょう。その人らしさやペースに合わせて穏やかに暮らしましょう。その人の力を発揮できるよう支援しましょう。を掲げている。また利用者の方の希望や職員のスローガンを掲示している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関口に掲示して、職員の意識づけを図っている。ケアプラン作成の際はその方の能力発揮や思考を考慮して作成を心かけている。</p>	<p>法人理念にある「出会い・ふれあいの輪」の達成のため今少し地域に飛び込んでゆきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>契約際にご説明をしている。運営推進委員会会員の方を通じて理念の説明を行っている。ボランティアさんや夏休みの学生ボランティアに来ていただき職員の活動を見ていただいている。</p>	<p>地域行事への参加を増やし、そのかわりの中で伝えてゆきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>施設周辺はグラウンドや畑に囲まれた環境であるため、民家は離れている。その為定期的に地域の朝市に出かけ交流の機会を作っている。訪問販売（ヤクルト、パン等）業者の定期訪問により施設以外の人物との交流を図っている。併設施設行事に参加し、GH以外の人と関係が持てるよう配慮している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の行事に本年度から参加した。地域の方から温かい支援をいただき毎年参加するようにしている。毎年恒例の町内の作品展に出品している。</p>	<p>消防署や地域の保育園・幼稚園の方に訪問する際の手作りのプレゼントを現在作成している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方への支援的な取り組みはなされていないが、町の作品展の作品等を通じて地域の高齢者の方の励みになれば良いと思っています。		地域貢献までは難しいが、課題としたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解している。実際にこの評価での課題は年間の事業計画に反映している。またこの評価を心地よい緊張感として職員もとらえており自己成長に結びつけて考えている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果や現在の課題等は運営推進委員会にて報告を行っている。		地域へのアプローチなど運営推進委員会の方から様々な助言が頂ける。貴重な意見を活かしきれるよう取り組みたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は町の福祉運営推進委員会や社会福祉協議会の委員に任命されているためグループホーム以外の方との意見交換や情報交換などを行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会の参加などにより情報収集をしている。また高齢者虐待防止を等を中心とした、権利擁護や後見人の必要性など説明している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で説明している。また参考になる文章があれば回覧している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>サービス、金銭、入退所の内容、苦情申立機関など気になる部分は丁寧に説明している。また契約後の細かな疑問についても対応している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の申し立ては、担当者以外に市町村や愛知福祉オンブズマンを設けている。苦情報告書を作成し、改善、報告、説明等申立者の要望に沿って対応を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的には毎月のGH新聞で個人様の生活の様子をお伝えしている。ケアプランの更新の時期などは長期の様子を交えお伝えしている。急なことは速やかに家族に連絡を行っている。一番大事な面会の際は新聞等の文書で様子はお伝えしているが、口頭でご報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の申し立ては、担当者以外に市町村や愛知福祉オンブズマンを設けている。苦情報告書を作成し、改善、報告、説明等申立者の要望に沿って対応を行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議などやその都度日々の報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>もう少し話す機会を増やしてほしいとの声もあるため、機会を増やしたい(管理者)</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>面会時間も、事前に要望があれば夜間の面会も可能である。また行楽行事などはその日の職員配置を多めにして対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やりがいのある職場 働きやすい職場を作り離職を防ぎたい。そのためには職員相互が認め合う環境を作る努力をしている。		永遠の課題ととらえている。職員間の活気ある挨拶に始まり、忌憚のない意見が言える風土を今以上に根付かせてゆきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は法人内の認知症の研修講師資格を持つ職員から認知症についての勉強会を実施している。また外部の研修などの機会も設けている。		対人援助サービスの立場から介護知識にとらわれず様々な知識を吸収してゆきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターにより町内のネットワークが開催されているため、そこに参加する。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	意見箱の設置や希望により管理者が話を聞く機会を設けている。忘年会、歓送迎会、食事会等施設で行っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課により、本人の強みや弱みを知ることにより個人目標を持つよう指示をしている。		職員ごとのモチベーションの持ち方、あり方があるため、職員へのコーチ技術を身につけたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には必ず面談し本人の外見や内面の情報を得ている。入所後も本人への言葉掛けや様子を確認し不安な訴えや様子等の対応策を職員間で話している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前は、本人だけでなく家族話も聞いている。必要であれば本人とは別に面談し一緒に話したり悩みや心配事を傾聴している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホーム利用申し込みの際、本人、ご家族の生活状況を聞き、場合によっては他のサービスを紹介している。また町内のサービス一覧表や連絡先もお渡ししている。また行動障害の状態によっては医師への相談などを助言している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に見学を行っていただいたり。可能であれば、お試し入所の機会を設けている(おもに在宅の方) 入所の際は、面談調査からケアプランを作成しているが、それにとらわれずまず本人との信頼関係の構築や言葉掛けを重視した支援を行っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の役割を支援し、たとえ上手くできなくても「ありがとう」の感謝を忘れない。本人の得意とする事に興味をもち、それを会話のきっかけとして行動している。</p>	<p>職員から「今日こんな話をしてくれました」「若い頃はこうだったんですね」等の報告を受けるとホッとします。これからも何気ない利用者様との会話が職員間で話題になるような職場を継続してゆきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	可能なサービス、不可能なサービスをご家族に説明し、ご家族で可能なこと（支えることができること）を話あっている。また、夏祭りなど施設行事の際はご案内し同じ時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が喜んでいたり上手くできたこと等本人の喜びの姿を家族にお伝えしている。「こんなことができたんですね」等の意見がいただけます。認知症の進行という課題の中で、少しでも良いことをお伝えすることが双方の関係の良好につながると思い実施しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や頂き物があれば手紙やお電話の手伝いをしている。今年度は、逝去された伴侶の写真を御兄弟を通じて探していただきご本人にお渡しをした。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	すべての方がより良い関係を結べるわけではないですが、よく会話している方や、気になる方の座席等に配慮している。状況によっては職員が間に入り会話の補助（耳が遠い方等）したりしている。口ゲンカなどもあります職員が間に入り話を聞いている。		会話などではそれぞれの話題や好み異なる。レクリエーションやゲーム的な要素でコミュニケーションがとれる仕組みづくりを行いたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も引き続き相談は伺う姿勢でいます。		入院中は、他の利用者の方と同伴で面会にゆくケースもあるが、退所後はご家族の要望やお考えに沿って検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前に生活歴について暮らし方をイメージしている。普段のつづやき等を大切にケアプラン等に反映している。また意向把握困難な方については、各職員の意見から意向の把握に努めている。</p>	<p>意志表示ができないかた。ご要望をうかがっても本位なのかかわからない方に対してのアプローチに職員は悩みをもっています。各職員で利用者の思考や嗜好を知るために職員同士で本人のイメージを鼻者ってみたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面談調査の際、出生や兄弟の事、職業歴やエピソード、また介護を受けるに至る経緯等、情報を集めている。また、担当のケアマネージャ等から介護サービス利用時の情報も収集している。</p>	<p>個人を、一方的な視点で見のではなく、さまざまな職員の視点からみて個人に近づけるようセンター方式をより活用してゆきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>バイタルチェック、食事、水分量など基礎的なことに始まり、一日の様子は生活記録に記載し今後の関わりや支援方法の方向性を決める材料としている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネージャが一人で行うのではなく各利用者様には必ず担当職員が存在し、その職員を中心として他の職員や家族の希望を交え協議している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>退院後等は必ず見直しをかけている。また3か月、6ヵ月と区切りはあるが、期間にとらわれず状況に応じて速やかに変更をかけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記入し、交代勤務を行う職員に周知している。この経過記録も検討しケアプランの変更継続見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当施設は、特養・ショート・デイ・居宅介護支援事業所を併設している。そのため行事など合同で行い参加していただいている。また各職員も事業の垣根を越えて相談に乗ったりしている。(特養への入所相談等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日本赤十字奉仕団扶桑支部の団員さんのボランティア訪問、また中高生の夏休みの体験ボランティアの依頼なども受け付けている。消防署においては合同避難訓練の指導などもしていただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	総合施設のため、他の職員からの助言や相談等が行える環境にある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対象者はないため実施はしていないが、必要とあればそのとおり行う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の病院を妨げることはしていない。遠方の場合は、ご家族の協力があれば可能としている。また緊急時は救急隊への依頼を迅速に行い連携を図っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設施設へ来苑される精神科医師と相談している。また、他の専門医師へは、日常生活や行動障害の状態など観察事項は通院するご家族へ伝え連携を図っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職や往診時の医師や看護師へ相談を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会や病院のソーシャルワーカーから情報を頂き、退院前の面談や退院後の注意事項など話し合う機会を設けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは行っていない		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアは行っていない		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入所の際は、本人の馴染みの品をお持ちいただくようお願いしている。(たとえば鞆など常に手元がないと落ち着かないもの)。また在宅時の担当ケアマネージャーや介護職員と面識があればホームに来てもらい話を聞くなどしている。退院時は入院中の様子や行動、対応策等情報収集に努めている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、就職時「個人情報保護に関する制約」を渡している。ファイルの持ち出しや、氏名等の情報は廃棄の際はシュレッダーにて破棄している。また、ご利用者のお名前は「ちゃん」といたずらにお呼びすることは失礼と受け止めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>わからなければ聞くをモットーとにかく相談してみる。その際も利用者によっては2者選択など考えやすい質問等工夫している。また言葉も「しましょか?」と問いかけ口調を重視。常に本人の脳に訴える(考えていただく様)支援を行っている</p>	<p>意志決定が困難な方が見える。表情や態度を材料にして本人希望の純度を高める取り組み(本人の内面を職員間で協議等)が必要</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調・気分を考え起床・食事時間は本人になるべく合わせている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時の整容支援(できる方には道具の準備)から始まり好みの服を選んでいただいている。訪問理容の時も好みの髪型をリクエストしていただいている。(わからない場合は好みの髪型をご家族に確認)</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に始まり、調理、食卓の清拭、おしぼり等それぞれできることを支援して行っています。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物時にお好きなものを購入（実費になりますが）していただいたり、飲み物の選択（コーヒー、紅茶、ジュース、熱いもの、冷たいもの）をしていただいています。お酒も可能ですが主治医と相談して提供しています。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを記入してパターンを把握しトイレ誘導に努めています。またおむつを使用する場合も、尿量を測定し本人にあったおむつの装着や見直しをしております。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが本人の希望を聞いて対応しております。（ほぼ1日おきぐらいです）入浴の順番は固定化せず本人の意見を聞いて対応しています。特に入浴がお好きでない方のタイミングには気を配っております。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	空調等、室温・湿度の調整はもちろん寝られない方は、話を聞くや飲み物を飲んで頂く等していません。夜間テレビを見ながら寝るのが好きな方も咎めず就寝後職員が消すように配慮。昼間の椅子やソファでうたた寝も場所にこだわらず生理現象としてうけとめ見守りを行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、刺繍、将棋、トランプ、歌など本人の好きなものを支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	度合により所持は可能である。社会生活また年齢上お金を持つことは当然であるが、本人が不穩に陥る場合は控えています。支払いは、訪問販売や買い物の際に施設のお財布をお渡しし支払能力の維持に努めています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩を実施している。また偏らないよう記録して全員が何らかの形で均等に外出できるようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中で希望を聞いているが、なかなか実現できない。		伴侶の墓参りや生まれ育った場所など実際には遠方過ぎてサービス範囲内では難しい希望がある。ただご家族同伴の日帰り旅行など企画は検討したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら行う場面はあまり見かけないが、ご家族や知人等からの贈り物を頂いた場合は、「お手紙や電話をかけてみては？」と職員が電話を掛け本人と替わったりと支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が何度も足を運んでいただくには職員の温かい挨拶や対応が不可欠と思っており、実施しています。居室や居間でお過ごしいただき他の利用者の方に手伝っていただきお茶の準備などしております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会があり検討をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の玄関やベランダ、居室（利用者の希望による）は鍵をかけていない。弊害は理解しているが安全面も検討にいれ最低限の施錠としている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が所在を確認し合っている。夜間は定期的な巡視時間を設けている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒剤の保険場所は鍵をかけている。薬剤も手の届かない場所に保管、ハサミ針などは本数を確認している。台所等の刃物類は夜間扉を施錠している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	床の水滴やゴミなど転倒や異食防止のため注意している。歩行状態に合わせて、靴などの選定等配慮している。消防訓練は年2回実施して避難場所や職員の連携方法を学んでいる。事故発生時は報告書を提出、回覧し事故への注意を呼び掛けている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習に参加をしている。夜間は判断が鈍るため緊急対応マニュアルを整備している。		介護職員の業務上の不安事項で1.2位を争う課題であると認識している。マニュアルの再度検討を職員で行う必要である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を行っており、他施設との連携を訓練している。夜間時は緊急連絡網により職員の召集体制も整備している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		ちょっとした体操などを増やしたい。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症委員会を通じてマニュアルを整備している。うがい、手洗いは毎食、外出後実施している。調理の際のお手伝いいただく方はまず手洗いの実施から始めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は、肉用、野菜用、魚用と分けている。その調理後と使用した布巾はまな板はハイターで消毒している。買い置きを控えなるべく買い物に出かけるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板をつけ温かみを出すよう工夫した。玄関前には職員の家族の手により季節の花を植えたりしている。		建築許可の関係で玄関は目立たない場所にある。改善は単独ではできない。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者様が活けた季節の花や張り絵などが置かれている。正月には門松やクリスマスはツリーを置くなどしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に長椅子、廊下にソファを置くなど居室や共同スペース以外の廊下にもくつろげる場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	昔から使っている家具などはスペースが許す限り 持ち込み可能としている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝の換気など窓を開けはなし空気の入替えを 行っている。居室などに温度計があるため気温に 合わせて調節している。冬場は湿度を維持するた め加湿器を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりを廊下に設置している。今の内部も手すり をつけている。家具などのに手がつけれるよう離 れすぎず近すぎず調整を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各部屋には表札をつけ、視覚で認識できるよ うにしている。トイレも「トイレ」と表示したり、利 用者様によっては居室からトイレまでの位置をビ ニールテープで表示しわかりやすようにしたり、 水道の使用方法も表示した。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	併設施設のため、共用の園庭(ウッドデッキ)が ある。ベランダも洗濯物が干せるようになってお り、利用者様によってはベランダで鉢植えをして いる方もみえる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は住宅地ではなく、特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・居宅介護支援事業所が一体運営された敷地にあります。その為、サービスの垣根を越えたつながり（例えば特養に入っても地域の知り合いの方がデイサービスに来られ出会う機会の継続等）の強みがあります。夏祭りなどに代表されるよう各職員の協働のもと利用者、ご家族のふれあいの輪の達成を実現しております。またグループホームも買い物等の日常的な外出支援を中心に施設を拠点とした社会生活実現に取り組んでおります。